



自治連だより

第17号



就任のご挨拶

鳥取市自治連合会
会長 渡邊勤治郎

この度、自治連会長を務めさせていただくことになりました。誠心誠意を銘として最善を尽くす覚悟でございますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。

少子高齢化や経済不況の進展は地域の自治会運営にも影響を与え、諸課題の解決等にも公助は薄く、共助・自助なくしては実現不可能な状況となり、これらを束ねる地域自治会の役割はますます重要となってきました。

その強化のためにも地区住民の協力が必要であり、住み良い地域づくりを担う「まちづくり協議会」の活動と併せて推進していただければより成果があらうと思います。

鳥取市も「いつまでも暮らしたい、だれもが暮らしたくなる鳥取市」を目指しております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

平成二十六年定期総会

鳥取市自治連合会は、平成二十六年五月十六日とりぎん文化会館小ホールにおいて、各地区より選出された代議員百二十六名の出席のもと平成二十六年定期総会を開催しました。

総会に先立ち、講演会では深澤義彦鳥取市長から「いつまでも暮らしたい、だれもが

暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」と題して、鳥取市政の展望についてお話ししていただきました。

総会では、池原範雄会長があいさつを述べた後、永年にわたり町内会活動に功績のあった四十七名の方々に対し、深澤市長、池原会長からそれぞれ感謝状及び記念品の贈呈が行われました。

続いて、深澤市長及び



湯口鳥取市議会議

長から祝辞をいた

だいた後、議案の審議

に入り、以下の議案が

承認されました。

- 平成二十五年事業報告及び収支決算報告、監査報告
- 平成二十六年事業計画(案)及び収支予算(案)
- 結成四十周年記念事業計画(案)及び収支予算(案)
- 役員承認



新役員

会長	渡邊 勤治郎
副会長	房安 一也
副会長	南部 敏
副会長	村山 洋一
副会長	竹森 貞美
副会長	村上 誘子
監事	大西 隆秀
監事	岡田 一壽
監事	下澤 理如

鳥取市自治連合会 結成四十周年記念式典

鳥取市自治連合会結成四十周年記念式典は、七月五日（土）午後一時三十分より、とりぎん文化会館小ホールを



会場として、当会加盟四十一地区の町内会関係者約百八十名が集い、鳥取県副知事、鳥取市長、鳥取市議会議長、第六代自治連合会長 森西辰良氏及び第七代自治連合会長 池原範雄氏ご臨席のもと、盛大に挙行されました。

式典は、結成四十周年記念事業特別委員会、中尾副委員長の開会のことばで始まり、渡邊自治連合長のあいさつに次いで、結成四十周年特別功労表彰に移り、住民自治の振興発展に功績のあった五十八名の方々に表彰状と記念品が授与されました。

引き続き林副知事、深澤市長、湯口市議会議長からそれぞれお祝いのおことばをいただきました。次に、受賞者を代表して池原範雄氏が謝辞を述べられ、その中で「先人の住民自治への情熱が連綿と引き継がれる限り、自治連の未来に限りはな



い。」と、締めくくられました。続いて村山委員長が記念事業の経過報告を行いました。

（委員会の経過を別記）

記念講演会では、鳥取大学地域学部地域政策学科准教授 塩沢健一氏を講師にお迎えし、『被災地の復興を支えた「顔の見える関係」―日頃からの

「つながり」がもたらすもの―』をテーマにお話を伺いました。房安副会長がお礼のあいさつを述べた後、中尾副委員長の閉会のことばで全日程を終了しました。

終わりにりましたが、昨年六月から記念誌「四十年のあゆみ」発刊及び記念式典からなる本事業の準備・実施にご尽力いただきました、委員・関係者の皆様に深く感謝申し上げます。概要報告とします。

結成40周年記念事業特別委員会

年月日	会議名	協議内容
25年7月26日	第1回委員会	委員長・副委員長の互選事業計画（案）
8月28日	第2回委員会	式典、感謝状贈呈基準（案）小委員会、記念誌内容
26年1月14日	第3回委員会	記念誌印刷業者選定、編集作業
3月7日	第4回委員会	式典内容、記念誌贈呈先
5月8日	第5回委員会	式典役割分担、講演会講師
6月24日	第6回委員会	式典、運営・進行

遷喬地区

町づくりは

芸術祭で

元魚町一丁目芸術祭実行委員会
委員長 尾崎英篤

町内の活性化を目指して「行燈」の設置からスタートした「元魚町一丁目芸術祭」は七年が経過し、町内の連携と地域の活性化に著実な効果が生まれていると実感しています。

主たる内容を紹介しますと、町内住民の作品展はレベルの高い作品が並び、音楽コンサートでは東京で活躍している竹田姉妹の演奏で道路を埋めつくした聴衆を魅了しました。

そして、町内児童の作品展は町の明るい将来を連想させ、抹茶カフェでは住民が制作した和菓子でおもてなしをしました。

尾崎悌之助生誕百周年では、かつてのアトリエが公開され講演会などの行事を行いました。

元魚町二丁目出身の漫画家谷口ジローのパネル展は谷口ジローロードの常設を目指し、今後も広報活動を続けたいと考えています。

今年十月四、五日開催予定の芸術

祭は新たな催しにチャレンジすべく準備を進めています。「鳥の劇場」主宰、中島諒人さんのアドバイスを受け、「元魚町一丁目商家の歴史」をテーマに江戸、明治、大正、昭和にかけての商家の激しい変遷と町が果たした役割を「寸劇・音楽・写真・イラスト・効果音」等を使い、懐かしい元魚町一丁目を再現させます。

私たちの元魚町一丁目はわずかに十八世帯の小さな町内ですが、文化芸術に関心のある住民が多く、これからも地域の活性化、特に子供たちが自分たちの住む町に誇りを持ち、高齢者に優しく元気に成長できる町づくりを目指して活動していきたいと考えています。



谷口ジロー作品
読書コーナー



竹田姉妹
コンサート

国府地区

お休み処建設で

村の活性化を

自治会運営

『瀧の傘』

雨滝自治会

鳥取市国府町で最も東に位置し、村所有の山林は兵庫県の標高三百二十メートルの位置に雨滝集落があります。

高齢化はもちろん、人口減少は顕著で、過疎化・農地荒廃が進み、数年後には集落を維持することが困難になる可能性も危惧される状況になってきました。三百五十年以上繁栄してきた村をこのまま廃村にしたいのか。自然豊かな素晴らしい環境に、将来子どもたち孫たちが帰ってきてくれる環境づくりができないものか。集落には、日本の滝百選に選定された誇るべき観光名所「雨滝」があり、年間を通じて県内外から訪れる数多くの観光客に対して何とか「おもてなし」をすることができないか。等々、平成二十二年頃から集落内で危機感を訴える意見が出てきました。

そのような中、「雨滝駐車場に休憩所・案内所・農産物等直売所を兼ねた

施設を建設しては」との住民意見を具体化することが始まりました。多額の建設費負担金・維持管理方法等について厳しい反対の声もありましたが、市補助制度を活用し、総事業費の半額を集落が負担することで「何とかして村の活性化をはかろう」と決議され、平成二十四年十月に、じげのお休み処『雨滝・瀧の傘』がオープンする運びになりました。

毎週土・日曜日のみの開店ですが、集落の誰かが無償で接客をしています。地元住民としては見慣れた景色でも、県外から来られた観光客は「いいな。癒される！」と自然を満喫して帰って行かれます。リピーターやブログを見て訪れる方など、新たな人との交流の輪も広がりつつあるのを感じます。たとえ山間の過疎地でも、価値観は人それぞれ違うことを教えられ、人との交流を更に深めていきながら、過疎地の活性化を図って行きたいと頑張っているとこ



雨滝「瀧の傘」

平成26年度 先進地研修視察の概要

平成26年度自治連合会先進地研修視察は、市民が主体的に安全で快適な魅力ある地域のまちづくりや、公共空間の美化運動及び不法投棄防止のための「ぎふまち育て隊」活動に取り組まれている岐阜県岐阜市を研修先に選定し、去る6月19日午後2時30分から岐阜市ハートフルスクエアG研修室で開催されました。

研修には、鳥取市自治連合会から、渡邊勘治郎会長をはじめ地区会長29名と事務局2名が参加し、岐阜市自治会連絡協議会からは、松井逸郎会長ほか4名の執行部の方々、岐阜市役所市民協働推進課から河合直哉副主幹ほか3名の皆さんの出席をいただきました。

研修会では、両市自治連代表のあいさつ、出席者紹介にはじまり、岐阜市の「自治会組織の概要」と「まちづくり協議会の組織の現状」について説明を受けました。自治会連合会50地区のなかで、まちづくり協議会組織はまだ21地区、自主防災会組織は20地区など、課題もかかえているようでした。

関心のあった「岐阜市アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”」～「環境美化に対する市民意識の高揚及び市民・行政の協働による快適な公共空間の創出を図るため、道路、公園、河川等の公共空間、文化財等まちのシンボルの美化及びその他環境保全のための市民によるボランティア活動を支援する」～について、参加会長から熱心な質疑が行われ、岐阜市の市街の美しさに改めて認識を深められたようでした。「協働のまちづくり」を進めるための9つの“重点推進施策”も説明を受け、鳥取市自治連合会運営の現状を紹介しながら、活発な質疑応答が交わされ、大変成果のある研修でした。(文責 泡田)



鳥取県自治会連合会の動き

平成二十六年年度

◆平成二十五年年度監査会 (四月二日)

◆第一回正副会長会及び事務局長会議 (四月十七日、倉吉市役所)

◆事務局担当者会議 (五月二十三日、倉吉市役所)

◆第二回正副会長会及び事務局長会議 (五月二十九日、倉吉市役所)

◆平成二十六年年度総会及び研修会 (六月十三日、米子市役所)

◎総会

今年度より三市持ち回りで会長職を務めることとなり、新会長に米子市自治連合会妹尾多紀一会長、副会長に鳥取市自治連合会渡邊勘治郎会長及び倉吉市自治公民館連合会岡野勝義会長が選出されました。

◎研修会

- ・「多様な資金源を活用した自治会の活性化について」(二財)とっとり県民活動活性化センター事務局長

毛利 葉 氏

ご懇情に感謝しつつ

鳥取市自治連合会

前会長 池原 範雄

今回の役員改選に伴い、鳥取市自治連合会の代表を辞することになりました。不肖の身でありながら、大過なく任を終えることができましたのは、一重に皆様方のお陰であり、厚く厚くお礼を申し上げます。と、今日のような複雑化した社会におきましては、**住民自治**の力は必要不可欠であります。『やればできる、お前ができただけだ』の言葉がありますが、皆様方のさらなるご活躍にご期待申し上げます。お礼の言葉といたします。

編 集 後 記

四月より、広報委員に一部交代があり、不慣れな中、各方面からご協力を得まして、「自治連だより第十七号」を発行することができました。関係各位に心から感謝申し上げます。

「自治連だより」は、各地区の特色ある活動紹介や自治連情報を発信していますので、より良い地区活動につなげていただけたらと思います。

これからも、会員の皆様の声に耳を傾け、一緒になって自治連が目指す「住みよいまちづくり」を充実・発展させていくためにも、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

(広報委員長 村上)